

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和4年度 第3回川西市介護保険運営協議会		
事務局(担当課)	福祉部 介護保険課		
開催日時	令和5年3月30日(木)13:30~15:00		
開催場所	アステ市民プラザ アステホール		
出席者	委員	大塚 保信、上農 哲朗、中村 敏美、本田 恵子、木部 美代子、清水 和恵、平岡 譲、井口 尚子、鷲野 奈美子、片岡 大雅、藪内 祐子	
	その他	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所	
	事務局	福祉部 山本部長 高塚副部長 介護保険課 田中参事 福丸課長 貞松課長 松永課長補佐 坂根所長 山本主査 新家	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 協議事項 川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に向けた各種調査の結果(速報値)について 3. その他 4. 閉会		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

## 審 議 経 過

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第3回川西市介護保険運営協議会を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課の松永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、委員の皆さま方には何かとご多忙のところ、ご参集賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず初めに、本日の会議録を作成するため、録音させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。なお、会議録の確認については、会長にご一任くださいますようお願いいたします。</p> <p>また、介護保険事業計画の策定にご協力いただくジャパンインターナショナル総合研究所の担当者が出席しておりおりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>大塚会長がまだ来られていないため、職務代理者である上農委員にこれ以後の議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
会長 職務 代理者	<p>それでは、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員15名中、本日この時点でご出席いただいておりますのは8名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき、本日の協議会は成立しております。みなさまの活発な意見交換を期待しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>傍聴の方はおられますか。</p>
事務局	<p>現在2名の方にお越しいただいております。</p>
会長 職務 代理者	<p>それでは、議事に入ります前に、事務局より資料の確認をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、本日の会議の次第と委員名簿を机上にお配りしております。</p> <p>次に、「資料1 令和4年度川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 結果報告書(速報版)」、「資料2 令和4年度川西市在宅介護実態調査結果報告書(速報版)」、「資料3 「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」及び「認知症対策アクションプラン」策定スケジュール」、「令和4年度第3回川西市介護保険運営協議会 意見提出書」、「地域包括支援センターの冊子」以上5点の資料お配りしております。</p>
会長 職務 代理者	<p>皆さま、資料はお揃いでしょうか。</p> <p>続いて、本日のスケジュールについて説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、全体会のみ開催するため午後3時頃までに終了する予定です。</p>

会長  
職務  
代理人

それでは、次第に沿って会議を進めてまいります。

協議事項「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に向けた各種調査の結果（速報値）」についてです。

事務局の説明を求めます。

事務局

福祉部介護保険課地域包括ケア推進担当課長の貞松と申します。

川西市では、本市が目指すべき高齢者保健福祉の基本的な方針と具体的に取り組むべき施策を明らかにするとともに、介護保険給付の円滑な実施を図るため、3年を1期とする川西市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定し、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けることのできるまちづくりを計画的に推進しています。

介護保険法第117条第5項では、市町村は日常生活圏域ごとの被保険者の心身の状況や置かれている環境などの事情を正確に把握したうえで介護保険事業計画を策定するよう努めるものとされていることから令和6年から令和8年度までの3年間を計画期間とする「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定に先立ちまして、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と「在宅介護実態調査」の2種類の調査を実施し、速報版としてとりまとめましたのでご報告させていただきます。なお、集計につきましてはほぼ完了しておりますが、体裁や内容の修正等がまだ若干必要ですので、今回は速報版という形で配布させていただいております。本来なら、会議の1週間前までに資料を送付させていただく必要がございましたが、できる限り集計内容を掲載できるようにしたいということから、当日配布とさせていただきます。ここでお詫びを申し上げます。

本日のご報告の流れといたしましては、介護保険事業計画策定にご協力いただいているジャパンインターナショナル総合研究所の担当者から調査の概要を説明し、続いて事務局から調査結果をご報告させていただきます。なお、「資料1 川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と「資料2 川西市在宅介護実態調査」の2種類の調査結果のご報告をさせていただき、引き続き「資料3 川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定に係るスケジュールをご説明させていただいた後、質疑応答の時間をとらせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、「資料1 川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の説明からはじめさせていただきます。調査の概要について、ジャパンインターナショナル総合研究所の國田(クニタ)様よろしくお願いいたします。

ジャパ  
ン総研

ジャパンインターナショナル総合研究所の研究員の國田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「資料1 川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の概要をご説明させていただきます。1ページ目「アンケートの概要」をご覧ください。

調査の目的は、要介護状態になる前の方の状況を把握したいということで書かれてますけれども、基本的には国が指定してる全国一斉調査の設問を中心にさせていただいております。加えて、川西市として今回お聞きしたい質問などが入っているアンケートであるとお考えください。ですので、基本は全国一斉調査ということになっております。

実施の概要としては、今回の調査に関しましては「要介護1以上の認定者を除く一般の高齢者・要支援者総合事業の対象者4,000人」を対象とし実施させていただきました。調査期間は、令和5年1月24日から同年2月10日までとしており、4,000件のアンケートを送りました結果2,676件の回答をいただきまして回収率が66.9%となっております。この回収率は、近年の社会調査の中ではそんなに悪い数字ではない、むしろ高い部類であるのご理解いただきたいと思います。

報告書の見方について、各数値を四捨五入しておりますので調査結果の合計が100%になっている場合やなっていない場合もございますのでご理解ください。複数回答の問題について、各選択肢に対する回答率なので合計しても100%を超えるようになっております。図の中で無回答とあるものについては、回答の判別ができないもの、もしくは回答のなかったものということになります。例えば、選択肢の中間に丸をされた場合も無回答の扱いになっております。資料の中で「n=〇〇〇」といった表記がございますが、これはそれぞれの選択肢を選ばれた方の人数、クロス集計又は年齢別で年齢ごとに何人対象になったとかを表している数字でございます。また、本文中あまりに文章が長い選択肢は省略してる場合もございますので、ご了承いただければと思います。説明は以上となります。

事務局

引き続き、事務局から調査結果についてご説明いたします。本調査項目は多岐にわたっており、時間の都合上すべてご説明できませんので抜粋してご説明いたします。

資料1の2ページをご覧ください。

『調査票を記入されたのはどなたですか。』という設問で、「あて名のご本人が記入」が82.8%を占めています。性別は「男性」が44.8%、「女性」が55.1%となっております。年齢は「70～74歳」が25.2%で最も高く、次いで「75～79歳」が25.0%、「80～84歳」が20.8%で続いています。

3ページをご覧ください。小学校区ごとの回答状況です。

「明峰小学校区」が14.9%で最も高く、次いで「多田東小学校区」が7.2%、「緑台小学校区」が7.1%と続き、中学校区では「東谷中学校区」が15.2%で最も高く、次いで「明峰中学校区」が14.9%、「多田中学校区」が14.2%で続いています。

5ページをご覧ください。アンケートの基本項目になります。

【1.あなたのご家族や生活状況について】という内容で、『問1(1) 家族の構成をお教えてください』では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が50.1%で突出しており、「1人暮らし」が16.9%でした。『その方々が、おおむね30分以内で行き来できる範囲にご家族や親戚などがいらっしゃいますか』というご質問では「はい」が56.7%を占めており、『問1(3) 普段の生活でどなたか介護・介助が必要ですか』というご質問に対しては、「必要ない」という方が86.4%を占めておりました。

6ページをご覧ください。

先ほどの設問において【「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方】のうち、『問1(4) 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか』という設問では、「高齢による衰弱」が31.0%で突出し、他にも「骨折・転倒」「その他」が18.4%で続いております。

7ページをご覧ください。

介護・介助が必要になった主な原因を年齢別にみますと、『65歳以上70歳未満』では「がん(悪性新生物)」が最多で、『75歳以上80歳未満』では「脳卒中」、『80歳以上85歳未満』『85歳以上』では「心臓病」「高齢による衰弱」、『85歳以上』では「骨折・転倒」の割合が高くなっています。

8ページをご覧ください。

地区別では、『川西中学校区』『緑台中学校区』では「高齢による衰弱」、『明峰中学校区』では「関節の病気(リウマチ等)」、『多田中学校区』では「糖尿病」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

9ページをご覧ください。

『問1(6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか』というご質問に対して、「ふつう」が58.0%で突出しています。「やや苦しい」が23.5%、「ややゆとりがある」が8.7%で続いております。

10ページをご覧ください。

『現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか』という設問を年齢別で見ますと、「65歳以上70歳未満」「75歳以上80歳未満」では、他の年齢層と比べて「苦しい」「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた割合が高くなっております。

地区別では、『川西南中学校区』『多田中学校区』では「苦しい」「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた割合が他の地区と比べて高くなっています。

11ページをご覧ください。

『問1(7) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか』では、「持家(一戸建て)」が80.1%で突出しています。

12ページから45ページまでの【2. 体を動かすこと】【3. 食べること】【4. 毎日の生活について】は、113ページ以降の《Ⅲ.健康リスクの状態》で説明しますので、一旦割愛させていただきます。

46ページをご覧ください。

【5. 地域での活動について】という設問の、『問5(1)① 「ボランティアのグループ」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が65.5%で突出しています。

『問5(1)② 「スポーツ関係のグループやクラブ」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が55.5%で突出しています。「週2~3回」が7.6%、「週1回」が6.0%で続いています。

48ページをご覧ください。

『問5(1)⑤ 「介護予防のための通いの場」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が68.0%で突出しています。「年に数回」が2.1%、「週1回」が1.6%で続いています。

『問5(1)⑥ 「老人クラブ」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が68.8%で突出しています。「年に数回」が2.7%、「月1~3回」が2.2%で続いています。

49ページをご覧ください。

『問5(1)⑦ 「町内会・自治会」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が55.1%、「年に数回」が15.1%、「月1~3回」が4.3%で続いています。

『問5(1)⑧ 「収入のある仕事」にどのくらいの頻度で参加していますか』では、「参加していない」が59.6%で突出しています。「週4回以上」が7.4%、「週2~3回」が5.8%で続いています。

『問5(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか』では、「参加してもよい」が50.0%を占めています。

50ページをご覧ください。

『参加者として参加したいか』を年齢別で見ますと、『65歳以上70歳未満』『70歳以上75歳未満』では「参加してもよい」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

『問5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか』では、「参加したくない」が57.1%を占めています。

51ページをご覧ください。

『企画・運営として参加したいか』を年齢別で見ますと、『65歳以上70歳未満』では「参加してもよい」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

55ページをご覧ください。【6. たすけあいについて】です。

『問6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか』では、「配偶者」が64.4%で突出しています。「別居の子ども」が34.2%、「同居の子ども」が19.7%で続いております。性別で見ると、『男性』は『女性』に比べて「配偶者」の割合が高くなっており、『女性』は『男性』に比べて「同居の子ども」「別居の子ども」の割合が高くなっています。

56ページをご覧ください。

年齢別で見ますと、『65歳以上70歳未満』は「配偶者」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

『85歳以上』では「同居の子ども」の割合が高くなっています。

57ページをご覧ください。

『問6(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか』では、「配偶者」が58.6%で突出しています。「別居の子ども」が21.6%、「そのような人はいない」が19.2%で続いています。

59ページをご覧ください。

『問6(5) あなたは、家族などの介護をした経験がありますか』では、「今まで介護の経験はない」が45.5%で最も高く、次いで、「以前、家族などを介護していた」が42.9%、「現在、同居の家族などを介護している」が5.3%で続いております。性別で見ますと『男性』は『女性』に比べて「今まで介護の経験はない」の割合が高くなっています。また、『女性』は『男性』に比べて「以前、家族などを介護していた」の割合が高くなっています。

61ページをご覧ください。

『問6(6) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください』では、「そのような人はいない」が44.1%で突出しています。「医師・歯科医師・看護師」が25.6%、「地域包括支援センター・市役所・支所」が18.4%で続いており、性別では『男性』は『女性』に比べて「そのような人はいない」の割合が高くなっています。

62ページをご覧ください。

『問6(7) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか』では、「月に何度かある」が27.4%で最も高くなっています。次いで「週に何度かある」が26.0%、「ほとんどない」が19.6%で続いており、性別で見ますと『男性』は『女性』に比べて「ほとんどない」の割合が高くなっており、『女性』は『男性』に比べて「週に何度かある」の割合が高くなっています。

63ページをご覧ください。

年齢別では、『85歳以上』では「ほとんどない」の割合が高くなっています。

64ページをご覧ください。

『問6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか』では、「近所・同じ地域の人」が37.6%で最も高くなっています。次いで「趣味や関心が同じ友人」が36.1%、「仕事での同僚・元同僚」が27.3%で続いています。性別では、『男性』は『女性』に比べて「仕事での同僚・元同僚」「いない」の割合が高くなっています。『女性』は『男性』に比べて「近所・同じ地域の人」「趣味や関心が同じ友人」の割合が高くなっています。

65ページをご覧ください。

年齢別では、『65歳以上70歳未満』『70歳以上75歳未満』では「仕事での同僚・元同僚」の割合が高く、『75歳以上』では「近所・同じ地域の人」の割合が高くなっています。

66ページをご覧ください。

『問6(9) あなたが実際に行っている近所づきあいはどのようなものですか』では、「あいさつ程度」が42.9%で最も高くなっています。次いで「世間話を交わす程度」が36.9%、「相談したり助け合う」が12.7%で続いています。

68ページをご覧ください。

『問6(9)』において「関わりがない」と回答した方において、『問6(10) 近所との関わりがない理由は何ですか』では、「特に意識したことがなかったため」が41.0%で最も高くなっています。次いで「関わる必要がないため」「人と関わるのが面倒なため」が32.1%で続いており、《性別》では、『女性』は『男性』に比べて「時間がないため」の割合が高くなっています。

69ページをご覧ください。

『問6(11) あなたご自身がご近所で手助けや協力ができることがありますか』では、「話し相手や相談相手」が30.7%で最も高くなっています。次いで「ごみ出し」が29.3%、「なし」が27.8%で続いています。

70ページをご覧ください。

性別では、『男性』は『女性』に比べて「外出の際の移動支援(通院を含む)」「電球や蛍光灯などの交換」「庭木の手入れ」「草むしり、草刈り」の割合が高くなっています。『女性』は『男性』に比べて「話し相手や相談相手」「食事の支度や後片付け」の割合が高くなっています。

71ページをご覧ください。

【7. 健康について】の『問7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか』では、「まあよい」が70.1%を占めており、年齢別では、年齢が上がるにつれて「よくない」「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合が高くなっています。

72ページをご覧ください。

地区別では、『清和台中学校区』では「よい」（「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合）が他の地区と比べて高くなっています。

73ページをご覧ください。

『問7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか』という設問では、「8点」が25.8%で最も高くなっており、「5点」、「7点」と続いております。

73ページの下段から75ページの項目についても、「Ⅲ. 健康リスクの状態」でご説明しますので割愛いたします。

79ページをご覧ください。

『問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか』では、「高血圧」が41.5%で突出しています。「ない」が17.1%、「目の病気」も17.1%で続いております。

80ページをご覧ください。

性別でみますと『男性』は『女性』に比べて「高血圧」「心臓病」「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」の割合が高くなっています。『女性』は『男性』に比べて「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が高くなっています。

82ページをご覧ください。

『問7(8) あなたの健康の秘訣はなんですか』では、「肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている」が52.4%で最も高くなっています。次いで「定期的を受診している」が46.7%、「定期的ウォーキングなど自分で運動している」が43.2%で続いています。

83ページをご覧ください。

『問7(8) あなたの健康の秘訣はなんですか』の設問を性別で見ると、『男性』は『女性』に比べて「定期的ウォーキングなど自分で運動している」「睡眠を十分とっている」の割合が高くなっています。

『女性』は、『男性』に比べて「肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている」「水分を十分にとるようにしている」の割合が高くなっています。

84ページをご覧ください。

【8. 必要な支援について】の『問8(1) 現在、日常生活の中で、手助けしてほしいとありますか』では、「なし」が52.5%で突出しています。「庭木の手入れ」が7.2%、「大型ごみの処理」が7.1%で続いています。

85ページをご覧ください。

『問8(1) 現在、日常生活の中で、手助けしてほしいとありますか』という設問について、年齢別では、若い年齢ほど「なし」の割合が高くなっておりますが、『80歳以上』では「外出の際の移動支援（通院含む）」の割合が高くなっています。

86ページをご覧ください。

『問8(1)』において「手助けしてほしいとすることがある」と回答した方のうち、『問8(2) ボランティアによる支援があれば利用しますか』では、「わからない」が32.4%で最も高く、次いで「無償ボランティアを利用する」が26.4%、「有償ボランティアを利用する」が17.7%で続いています。

87ページをご覧ください。

地区別では、『明峰中学校区』では「有償ボランティアを利用する」、『多田中学校区』では「利用しない」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

88ページをご覧ください。

『問8(3) あなたが住んでいる地域ですっと暮らし続けるためには、介護保険サービス以外にどのようなサービスがあればよいですか』では、「外出の際の移動支援サービス」が34.5%で最も高くなっています。次いで「介護予防を含めた健康事業」が21.0%、「定期的に声をかけてくれる見守り」が17.6%が続いています。地区別では、『明峰中学校区』『緑台中学校区』では「外出の際の移動支援サービス」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

89ページをご覧ください。

『問8(3)』において「外出の際の移動支援サービス」と回答した方の中で『問8(4) どのような時に移動支援サービスを利用したいと思われませんか』では、「通院」が48.9%で最も高く、次いで「買い物」が22.7%、「公共交通機関利用のため」が11.4%が続いています。

年齢別では、『85歳以上』では「通院」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

90ページをご覧ください。

『問8(4)』の回答を地区別で見ますと、『川西南中学校区』『多田中学校区』では「通院」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

91ページをご覧ください。

『問8(5) あなたが住んでいる地域ですっと暮らし続けるためにはどのような施設が必要ですか』では、「医療施設」が39.3%で最も高くなっています。次いで「介護施設」が26.4%、「コンビニやスーパー」が26.2%が続いています。

92ページをご覧ください。

地区別で見ると、『川西中学校区』では「幅広い年代が集まれる場所」、『明峰中学校区』では「コンビニやスーパー」、『東谷中学校区』では「医療施設」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

93ページをご覧ください。

【9. 認知症対策について】は、今回初めて市の独自項目として調査しています。

『問9(1) 認知症の予防や早期発見に関して、どのような支援や仕組みがあればよいと思いますか』では、「認知症の検査を近所で受けられる場所や仕組み」が37.0%で最も高くなっています。次いで「認知症の専門医に相談できる場所や仕組み」が36.8%、「認知症の予防や早期発見に関するチェックリストやパンフレット」が28.6%が続いています。

94ページをご覧ください。

年齢別で見ると、『65歳以上70歳未満』では「認知症の専門医に相談できる場所や仕組み」「認知症診断医療費の助成」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

95ページをご覧ください。

『問9(2) あなたや家族が認知症になった場合、どのような支援やサービスがあればよいと思いますか』

では、「入所して支援を受けることのできる施設」が43.6%で最も高くなっています。次いで「通所して支援を受けることのできる施設」が42.3%、「医療費に対する助成」が36.2%が続いています。

96ページをご覧ください。

年齢別でみると、『65歳以上70歳未満』では「入所して支援を受けることのできる施設」「医療費に対する助成」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

97ページをご覧ください。

『問9(3) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか』では、「いいえ」が88.4%を占めており、『問9(3)』において「はい」と回答した方の中で、『問9(4) それはどなたですか』という設問では、「配偶者」が37.0%で最も高くなっています。次いで「親」が33.6%、「本人」が16.8%が続いています。

『問9(5) 認知症に関する相談窓口を知っていますか』では、いいえが81.0%でした。

98ページをご覧ください。

【10. 人生会議(ACP)について】も、今回新規の市の独自項目となります。

『問10(1) 「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」について知っていますか』では、「知らない」が81.5%を占めています。

100ページをご覧ください。

『問10(3) 将来、寿命が近づいたとき、どこで過ごしながら医療・ケアを受けたいですか』では、「自宅」が39.1%で最も高く、次いで「わからない」が26.0%、「病院」が18.0%が続いています。

102ページをご覧ください。

【11. 介護保険制度について】の中で、『問11(1) 介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗がありますか』の回答は、「ない」が84.3%を占めています。

103ページをご覧ください。

『問11(1)』において「ある」と回答した方のうち、『問11(2) 理由はなんですか』では、「制度自体がよくわからないから」が52.7%で最も高くなっています。次いで「人の世話にならず、自分でやっていきたいから」が38.2%、「手続きが難しいから」が28.9%が続いています。

104ページをご覧ください。

【12. 地域包括支援センターについて】の設問です。

『問12(1) 高齢者が自立して生活できるよう相談にのったり、福祉サービスの利用につないだりする支援や介護予防などを行っている「地域包括支援センター」が市内にあるのを知っていますか』では、「知っている」が50.6%、「知らない」が48.0%です。

106ページをご覧ください。

『問12(1)』において「知っている」と回答した方で『問12(2) どこで知りましたか』では、「市の広報誌」が37.2%で最も高くなっています。次いで「市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック」が30.1%となっています。

108ページをご覧ください。

こちら今回新規の市の独自項目である、【13. 福祉情報の収集について】です。

『問13(1) 介護や福祉、イベントや防災の情報など、行政や地域の情報を何から得ていますか』では、「市の広報誌」が77.8%で突出しています。「地域の回覧版」が37.4%、「新聞・雑誌」が17.2%で続いています。

111ページをご覧ください。

『問13(2) スマートフォンまたはタブレット端末を持っていますか』では、「持っている」が73.9%を占めています。

112ページをご覧ください。

地区別では、『川西南中学校区』では「持っていない」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

113ページをご覧ください。説明を割愛しておりました《Ⅲ 健康リスクの状態について》です。

活動性や生活機能が低下して要介護状態となるおそれの高い高齢者を把握するために、「運動器」「転倒」「閉じこもり」「低栄養」「咀嚼」「口腔」「認知機能」「うつ」の8項目について、ニーズ調査の結果から、国のマニュアルに沿って判定を行なったものです。12ページから45ページまでと、73ページから75ページの項目にあった各設問の選択肢の内、網掛けの選択肢を回答した人がリスクの対象となります。リスクごとに、決められた個数の回答があった場合に、リスクがある高齢者として判定されます。各項目についてご説明いたします。

114ページをご覧ください。

【1. 運動器の機能低下について】です。運動器の機能低下している高齢者に関する設問で、『運動器の機能低下「あり」』は15.6%となっております。

115ページをご覧ください。

性別では、『女性』は『男性』に比べて「あり」の割合が高くなっており、年齢でみた場合、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

116ページをご覧ください。

【2. 転倒リスク】では、該当設問 体を動かすことについて、『過去1年間に転んだ経験がありますか』の項目です。転倒リスク「あり」は32.7%となっており、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

117ページをご覧ください。

地区別では、『多田中学校区』では「あり」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

118ページをご覧ください。

【3. 閉じこもり傾向】では、同じ設問で『週に1回以上は外出していますか』の項目で、閉じこもり「あり」は19.7%となっており、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

119ページをご覧ください。

地区別では、『緑台中学校区』では「あり」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

120ページをご覧ください。

【4. 低栄養状態】では、該当設問 食べることについての『BMI値と6か月間で2~3kg以上の体重減少

がありましたか』という項目で、低栄養状態「あり」は1.4%となっています。

121ページをご覧ください。

【5. 咀嚼機能の低下】で、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。該当設問 食べることに ついて、咀嚼機能の低下「あり」は29.1%で、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

122ページをご覧ください。

【6. 口腔機能の低下】は、口腔機能の低下が疑われる高齢者の該当設問 食べることに ついてで、『半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか』の項目が該当し、口腔機能の低下「あり」は25.9%となっており、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

123ページをご覧ください。

【7. 認知機能の低下】では、該当設問 毎日の生活について『もの忘れが多いと感じますか』が該当し、認知機能の低下「あり」は44.0%となっており、年齢が上がるにつれて「あり」の割合が高くなっています。

124ページをご覧ください。

【8. うつ傾向】では、該当設問 毎日の生活についての項目で、うつ傾向「あり」は41.2%となっています。こちらにも、『80歳以上』では他の年齢層と比べて「あり」の割合が高くなっています。

以上で、「資料1 川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果(速報版)」の説明を終わります。

続きまして、「資料2 川西市在宅介護実態調査結果(速報版)」について、担当を変わらしてご説明いたします。

事務局

失礼いたします。続きまして「資料2 川西市在宅介護実態調査結果(速報版)」につきまして、介護保険課 福丸よりご説明させていただきます。ご説明に先立ちまして、ジャパンインターナショナル総合研究所から調査概要についてご説明させていただきます。

ジャパン  
総研

調査の概要について説明させていただきます。「I アンケートの概要」のページをご覧ください。こちらの調査は、要介護状態にある高齢者の皆様の在宅生活の継続、家族介護者の状況などを把握するために行っているものです。

今回の調査は、「A票」「B票」「C票」から成り立っておりまして、「A票」と「B票」につきましては、基本的に全国共通の調査がほとんどとなっております。「C票」については、今回、川西市の方でお聞きをしております。認知症関連や人生会議などの質問が入っております。今回の実施概要につきましては、在宅の要介護・要支援認定者のうち、令和4年12月1日以降に介護認定を更新された方などを中心に1,200名の方にアンケートを送りして回答いただいております。

調査期間は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と同じ1月24日から2月10日までとなっております。

今回、1,200名に配布したうち、回答をいただいた方は674件で56.2%の回収率になりました。こちらの調査は、国の指針として最低限確保するのが400件ということなので、その1.5倍以上となっております。

報告書の見方は「資料1 川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果(速報版)」と同じでございます。

す。以上で概要の説明を終わります。

事務局

それでは、調査結果の説明をさせていただきます。

資料2ページ、【A票 調査対象者様ご本人について】でございます。

『問2 あなたの世帯構成について教えてください』という設問ですが、「夫婦のみの世帯」が、39.0%となっており、最も高い値となっております。

続きまして資料3ページの『問3 現時点での施設等への入所・入居について検討していますか』につきましては「入所、入居は検討していない」が64.7%を占めております。

続いて資料4ページ、検討されている方について年齢別でみてまいりますと、おおむね年齢があがるにしたがって入所・入居を検討している方が増えている状況でございます。

続きまして資料5ページ、『問4 ご本人が現在抱えているできる疾病はありますか?』という問いに対してですが、「認知症」というお答えが40.9%で最も多くなっております。続いて「眼科・耳鼻科疾患、(資格・聴覚障害を伴うもの)」が22.4%と続いております。

資料7ページをご覧ください。

この回答を年齢別で見えますと、「認知症」につきましては、80歳を境にしまして80歳以上になりますと割合が高くなっております。また、「筋骨格系疾患」については90歳以上になりますと割合が高くなっていく状況でございます。

続きまして資料8ページです。

『問5 令和4年12月の1ヶ月の間に、住宅改修や福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用しましたか』という問いに対しては、「利用した」というお答えが62.6%となっております。

資料9ページをご覧ください。

介護保険サービスを利用していない方について、その理由をお尋ねしてございまして、利用していない理由としましては、「家族が介護をするため必要ない」が30.2%で最も高くなってございまして、次いで「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が26.3%と続いております。

続きまして資料11ページ、『問8今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスはありますか』という問いに対しまして、「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」が34.6%で最も高くなっており、次いで「特になし」が24.2%、「外出同行(通院・買い物など)」が22.3%と続いております。

資料14ページをご覧ください。【B票 主な介護者の方について】です。

『問1 ご家族やご親族の中で、ご本人様の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか』という問いにつきましては、「主な介護者が仕事を辞めた(転職を除く)」が8.3%となっております。これを性別との関係で見えてまいりますと、主な介護者が退職をされる場合は、男性よりも女性が多いという結果となっております。

資料15ページをご覧ください。

『問2 主な介護者はどなたですか』という本人と介護者との関係を問う設問で、「子」が47.7%で最も高く、続いて「配偶者」が38.3%となっております。これを性別で見えてまいりますと、配偶者の場合は「男性」

が多く、子の場合は「女性」が多いという結果になっております。

資料16ページの『問3 主な介護者の方の性別はどちらですか』ですけれども、「女性」が64.3%を占めております。

資料17ページ『問4 主な介護者の方の年齢は何歳代ですか』という問いですが、「60代」が26.0%で最も高く、次いで「80歳以上」が25.6%、「50歳代」が21.1%と続いております。

資料19ページをご覧ください。

『問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等があればお教えてください』という問い対しましては、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が82.8%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が79.1%、食事の準備(調理等)が76.5%と続いております。

資料21ページをご覧ください。

『問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等がありますか』という問いですが、「認知症状への対応」が44.6%で最も高くなっております。次いで「外出の付き添い、送迎等」が34.9%、「夜間の排泄」が34.1%、「入浴・洗身」が32.5%と続いております。

資料22ページをご覧ください。

この設問に関しまして、性別との関係で見ると、「男性」は「女性」に比べて、「入浴・洗身」「衣服の着脱」「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高くなっており、「女性」は「男性」に比べて、「認知症状への対応」の割合が高く出ております。

資料23ページをご覧ください。

『問7 主な介護者の方の現在の勤務形態をお教えてください』という設問ですが、働いていないとの回答が61.7%で最も多く、パートタイムで働いているが17.6%、フルタイムで働いているが15.4%と続いております。

資料24ページをご覧ください。

『問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていきますか』という設問です。「介護のために労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出、早帰り、中抜け等)しながら働いている」が42.9%で最も多く、「特に行っていない」「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)を取りながら、働いている」が23.9%と続いております。

資料25ページをご覧ください。

『問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか』という設問です。「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.9%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択」が25.2%、「制度を利用しやすい職場づくり」が23.9%、その次、「介護をしている従業員への経済的な支援」が23.3%と続いております。

資料26ページをご覧ください。

『問9 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか』という問いです。

「問題はあがるが、何とか続けていける」が56.4%で最も多く、「続けていくのは、やや難しい」が10.4%、「問題なく、続けていける」が9.6%と続いております。

資料27ページをご覧ください。ここからが【C票 高齢者に関する課題について】の設問です。

『問1 認知症の予防や早期発見に関し、どのような支援や仕組みがあればよいと思いますか』という問いに対しましては、「認知症の検査を近所で受けられる場所や仕組み」が43.6%で最も高くなっています。次いで「認知症の専門医に相談できる場所や仕組み」が43.3%、「認知症診断医療費の助成」が33.4%で続いております。

資料28ページの下段をご覧ください。

この設問に関しまして、年齢との関係を見てまいりますと、65歳以上70歳未満では「認知症の検査を近所で受けられる場所や仕組み」、70歳以上75歳未満では「認知症の予防や早期発見に関するチェックリストやパンフレット」、「認知症診断医療費の助成」、70歳以上75歳未満及び95歳以上では「認知症の専門医に相談できる場所や仕組み」の割合が高くなっております。

資料29ページをご覧ください。

『問2 あなたや家族が認知症になった場合、どのような支援やサービスがあればよいと思いますか』という設問です。

「入所して支援を受けることのできる施設」が46.6%で最も高くなっています。次いで「医療費に対する助成」が40.4%、「通所して支援を受けることのできる施設」が37.5%と続いております。

資料31ページをご覧ください。

この設問に関しまして、年齢との関係を見てまいりますと、65歳以上70歳未満では「医療や福祉の専門職の訪問を受けて、個別に相談や支援を受けることのできる仕組み」「認知症の症状が原因で他の人や物に損害を与えてしまったときの補償」、65歳以上70歳未満及び90歳以上95歳未満では「入所して支援を受けることのできる施設」、95歳以上では「医療や福祉の専門職に相談できる場所」の割合が高くなっています。

次に資料32ページをご覧ください。

『問3 調査対象者ご本人様は認知症または認知症のような症状がありますか』については、「はい」が47.0%で最も高く、次いで「いいえ」が35.0%となっております。

資料33ページをご覧ください。

この設問について、年齢との関係のみてみますと、『80歳未満』では「はい」が30から35%程度に対しまして、80歳以上では50%前後となっております。

資料34ページをご覧ください。

『問4 認知症に関する相談窓口を知っていますか』については、「いいえ」が69.6%となっております。

資料35ページをご覧ください。

『問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか』については「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた数値が5.3%、「ふつう」が51.8%、「大変」と「やや」を合わせた苦しいが39.4%となっております。

資料36ページをご覧ください。

『問6 現在、調査対象者ご本人様のために家族が負担している費用はありますか』について、「負担はな

い(本人の年金等の収入や資産でまかなえる)」が 43. 0%で最も高くなっており、次いで「日常の生活費」が34. 1%と続いております。

資料38ページをご覧ください。

『問7 「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」について知っていますか』については、「知らない」が77. 9%となっております。

資料39ページをご覧ください。

『問8 自分の医療・ケアに関する希望について、周囲の信頼する人や医療・福祉専門職と話し合ったことはありますか』という設問です。「話し合ったことはない」が52. 8%、「一応話し合ったことはある」が30. 6%となっております。

資料41ページをご覧ください。

『問9 将来、寿命が近づいたとき、どこで過ごしながら医療・ケアを受けたいですか』という設問です。「自宅」が38. 1%で最も高く、次いで「分からない」が25. 5%、「病院」という回答と「介護施設(老人ホームなど)」という回答がともに15. 6%と続いております。

資料42ページをご覧ください。

『問10 介護や福祉、イベントや防災の情報など、行政や地域の情報を何から得ていますか』については、「市の広報誌」が57. 1%で最も多く、「地域の回覧板」が25. 5%、「テレビ・ラジオの放送」が24. 2%と続いております。

最後に資料44ページをご覧ください。

『問11 スマートフォンまたはタブレット端末を持っていますか』について、「持っている」が57. 4%、「持っていない」が39. 2%となっております。

以上、「資料2 令和4年度 川西市在宅介護実態調査結果報告書(速報版)」について概要をご説明をさせていただきました。

続きまして、『資料3 「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」及び「認知症対策アクションプラン」策定スケジュール』についてご説明いたします。

川西市では、令和5年度に令和6年度から3年間の計画期間であります「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」を策定いたしますけれども、これと合わせまして認知症の早期発見から家族支援、認知症になっても暮らせるまちづくりを一体的に進めるということを目指しまして、「認知症対策アクションプラン」の策定を行うとしております。この認知症対策アクションプランにつきましても、介護保険運営協議会の中でご意見をお伺いしながら策定してまいりたいと考えておりますので、併せてスケジュールをご説明させていただきます。

もうすでに始めておりますが、各地域団体をはじめとした皆様に意見をお聞きする取組を進めております。その質疑が本日の川西市介護保険運営協議会でございまして、計画策定に向けた各種調査の速報結果をご報告させていただいております。4月上旬には、認知症対策アクションプランの意見集約を行い、5月から6月にかけて計画策定に関する市民ワークショップを市内14地区で実施させていただく予定としております。また6月には、介護サービス事業者の皆様からご意見をお聞きする機会を設けようと考えて

おります。

その後、意見をお聞きした内容をふまえて、7月の下旬にこの川西市介護保険運営協議会を開催いたしまして、現在の計画の進捗をご報告させていただいたうえで、第9期介護保険事業計画と認知症対策アクションプランの骨子案をお示したいと考えております。ここでご意見をお聞きしまして、その後8月から10月は計画策定の作業を進めまして、10月下旬に川西市介護保険運営協議会を開催し、計画と認知症対策アクションプランの素案をお示しまして、ご意見を頂戴したいと考えております。そういったご意見をふまえて、11月の下旬には計画案としてとりまとめたいというふうと考えております。また、12月の下旬には川西市議会の方にこれらの計画案について、ご説明をする機会を設けたいと考えております。

その後、令和6年1月にパブリックコメントを実施いたしまして、市民の皆様から広くご意見を頂戴したいと考えております。合わせまして、第9期介護保険事業計画期間に係る介護保険料を定める必要がございますので、1月の下旬には、川西市介護保険運営協議会を開催いただきまして、第9期計画期間の介護保険料についてご協議をいただきたいと考えております。そういった皆様のご意見をふまえて、2月の下旬から始まります川西市議会の3月定例会に介護保険条例案、介護保険料の改定を含む条例を上程したいと考えております。そして3月下旬に川西市介護保険運営協議会を開催いただきまして、完成いたしました第9期介護保険事業計画と認知症対策アクションプランについてご報告させていただく予定としております。

今のところ、このような形で進めてもらいたいと考えておりますけれども、川西市は令和5年度は総合計画をはじめとしまして、数多くの計画の改定が重なっております。総合計画を頂点といたしまして、福祉の関係で申しますと、地域福祉計画というのが福祉の分野別計画としてございまして、高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画があるといった階層構造になっておりますので、そういった関連する計画と整合をとりながら、策定作業を進めていく必要がございますので、このスケジュールが若干前後する可能性がありますことをあらかじめご承知いただければと考えております。以上、各調査結果ついて速報のご報告と策定スケジュールのご説明を終わらせていただきます。

なお、この後にご意見・ご質問を頂戴いたしますけれども、資料配付が当日となりましたので後日に資料をお読みいただきまして、新たにご意見・ご質問などでくることもあるかと思っております。お手元の意見提出書と返信用封筒を置かせていただいておりますので、こちらにてご提出いただければと思います。よろしくお願いいたします。事務局からは以上となります。

会長  
職務  
代理者

説明は終わりました。

本件について、ご意見、ご質問等はありませんか。

委員

資料1の65ページの設問が『友人・知人と会う頻度はどれくらいですか×年齢別』となっておりますが、63ページの設問と内容が一緒です。『よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか×年齢別』が正しい内容ではないでしょうか。

事務局

ご指摘のとおりです。訂正させていただきます。

委員 「認知症対策アクションプラン」について、私たちが以前からキャラバンメイトとして開催している認知症サポーター養成講座との違いを教えてください。

事務局 「認知症対策アクションプラン」を担当している田中よりご説明いたします。  
川西市では以前から認知症施策について着手しておりそれぞれで取組をしているところだが、簡単に言うと、それらをより動かし加速させて進める、いわばエンジンみたいな部分が認知症対策アクションプランであるという捉え方をしていただけたらと考えております。現在、認知症施策の各取組をより一層進めるためにどうしたらいいか、実際に地域で活動していただいている方々や団体の方々からご意見を伺っているところです。新たなものをつくるというよりも今あるものを再スタートさせるような位置づけと考えております。

委員 現状では認知症に対してケアができていないという意味でしょうか。

事務局 そうではございません。例えば、地域包括型認知症ケアネットというのを4年前に地域の皆様で座談会を開いて住民の皆さんと一緒に策定しており、この中には個人、家族、事業者及び行政が認知症の状態のうちどういうことに取り組みば認知症になってもこのまちで暮らしていけるかという大きな指針のようなものを策定しております。この4年間、コロナ禍の影響もありなかなか進んでいないところがあるので具体的にどのようなことをいつまでにするのか決めていかないと具現化しないと思うので、それをアクションプランの中で詳しく決めていけたらと考えております。

委員 私たちの地域では SOS という形で行方不明者をお探する取組をしておりました。この3年間はコロナ禍もあり、認知症に対して意識が高い方がたくさんおられるのか、探してくださいという方がこの3年間いらっしやらなかった。しかし、今回のアンケート調査を見たところ、認知症に対してすごく心配されていると掲載されており、認知症で行方不明になったというものは川西市でもあまり今年度は流れてこなかったと感じております。ですので、認知症対策アクションプランの進め方について具体的に教えていただけますでしょうか。

事務局 地域支援ネットワーク構築事業として取り組んでいる「行方不明者SOSネット」についてのお話かと思えます。この取組については、行方不明者の届出は一定数あるけれども、皆様に配信する前にその方が見つかる場合やファックスからメールに配信方法の仕組を変更している点、靴ステッカーの取組など今までの積み重ねの効果が出てきていると思います。また、GPS機能がこの何年間で進歩しているので、認知症対策アクションプランの中で従来のGPS機器を最新のものに変えていくような検討をしたいと考えております。

委員 資料1の114ページ【1. 運動器の機能低下】の下段、図表の中では「あり」が15.7%となっているが、文章では15.6%となっている。資料2の41ページ『問9 将来、寿命が近づいたとき、どこで過ごしながらい医療・ケアを受けたいですか』の回答についても、図表では「病院」「介護施設(老人ホームなど)」がともに15.6%であるが、文章では「病院」が15.6%となっている。「介護施設(老人ホームなど)」も加えていただけたらと思います。

事務局 ご指摘のとおりです。訂正させていただきます。

委員 「川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と「川西市在宅介護実態調査」の報告を聞きまして、前者の資料では性別や年齢という属性別の記載がありますが、後者にはそういう属性分けしたものが載っていません。国が示す基準に基づいてやっているから仕方がないという捉え方でよろしいですか。

事務局 調査の設計上のことで、「介護予防日常生活圏域ニーズ調査」は、日常生活圏域ごとのニーズや課題を明らかにすることを目的としていて、調査対象者の抽出の段階でそれぞれの圏域ごとの人数を人口比に合わせるなど調整をしたうえで対象者を抽出しているため、地区別に分析しております。

一方、在宅介護実態調査は対象者がニーズ調査ほど母数が多いので地区別の抽出はしていません。令和4年12月1日以前に介護認定調査を受けた方に対して調査をしているため、サンプルに無作為性がないということから地区別の分析はできないということになっております。

委員 地区別の分析に関しては理解しました。ただし、わかりやすさの観点からできることなら両方の調査で性別や年齢の分析があったほうが良いと思います。

委員 資料2の8ページ『令和4年12月の1ヶ月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか』という設問について、介護サービスを使われている方が回答者の3分の2くらいである中、これらの年齢層の方が介護サービスを利用しているパーセンテージと、回答されている内容とでどのくらい差がありますでしょうか。川西市は65歳以上の方の介護保険サービス利用率はそんなに高くなかったと思いますが。

事務局 介護実態調査については、介護認定調査を受けた方が対象なので、認定調査を受けた方の中で住宅改修や福祉用具以外に継続的な介護保険サービスを使っている割合をこちらでも示しております。同じ年齢層の中でどれくらいの方がサービスを使っているのかは今手元に資料がないのでお示しできません。

委員 例えば、調査を受けられた対象の方が3分の2くらいが介護サービスを使っているのだったら、だいたい同じくらいなのでしょう。介護サービスをたくさん使っている人が困っているから、たくさんアンケートに答えていただけたということなら、それはすごくいいことと思いつつお聞きしました。

委員 今回の調査結果は非常に参考になりました。介護事業所として、現在取り組みたい内容やこの先想定していることがたくさんあります。介護保険や公的サービスを主に行っている事業所に加え、社会貢献活動とか幅広くいろいろな活動を行う事業所では、健常といわれるそれ以外の方、妊婦さんとか怪我をされている方にご利用いただけるような活動をしておりまして、これらの活動に活用できるような、参考になるようなことがたくさんあって今後も地域の方のために使っていけたらと思います。この資料をいただいて良かったです。

委員 この調査結果は公開するのでしょうか。

事務局 新しい介護保険事業計画計画ができ次第、当該計画と同時に公開する予定です。

委員

民生委員として見守りを行う中、一人暮らしの方でも認知症の方が増えてきたのが現状です。夫婦二人で暮らしていてもどちらかが病気になったのをきっかけに症状が発生するのではと思います。この前、「認知症対策アクションプラン」でアンケートを行っていたが、その結果は知らせていただけるのでしょうか。回答した福祉委員や民生委員はアンケート結果を気にしていると思います。

事務局

今年に入りまして、民生委員、児童委員及び地区福祉委員の皆様にご協力いただきありがたく思っております。アンケート用紙を回収し、現在市で集約しているところでございます。

今後の流れをご説明しますと、まずは集約した意見と本日のアンケート結果について、市内7つの日常生活圏域に所在する地域包括支援センターの地域支援推進員、川西市の認知症対策アクションプランの担当者及び川西市社会福祉協議会のコミュニティワーカーの三者で結果及び地域課題を共有し、優先される施策を検討していきたいと考えております。

そこでまとまったものを川西市社会福祉協議会のコミュニティワーカーさんにフィードバックさせていただこうと思っており、その時点で何かお示しできると考えております。

会長

他にご意見、ご質疑等はございませんか。

職務

それでは、他にご質疑等もないようですので、協議事項「川西市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に向けた各種調査について」は、以上で終わります。

代理者

以上で、本日予定していた議事は、全て終了しました。

事務局から連絡事項等がありますか。

事務局

事務局から4点ございます。

まず、1点目が多田地域包括支援センターの移転でございます。

本日、お配りしております「こんにちは！地域包括支援センターです」という資料の一番最後のページをご覧ください。各地域包括センターの連絡先や担当圏域を載せております。その上から4つ目に多田地域包括支援センターを記載しております。これまで協立温泉病院の方に設置しておりましたが、令和5年2月13日に平野2丁目の方に移転いたしました。具体的には、大きい道路の向かい側をちょっと進んだところにauショップがあったと思いますが、そこに移転しております。

続きまして、福祉部長の山本が令和5年3月31日をもって退職いたします。一言、皆様にご挨拶を申し上げます。よろしく願いいたします。

〈以下、山本部長〉

福祉部長の山本です。皆様には大変お世話になっております。私、ちょうど明日で定年退職になります。4月からは、明峰公民館長として仕事をします。私の後任は、福祉部副部長の高塚が4月から福祉部長となりますので、どうかよろしく願いいたします。

私、平成25年に介護保険課長になりまして、そこから10年間介護に関わってまいりました。その間に、川西市介護保険運営協議会を開催させていただきまして、皆様から活発なご意見やご議論をしていただきまして、川西市の高齢者のために皆様がどれだけ汗をかいて介護保険事業計画をつくっていただいたのかを

身にしみてわかっております。委員の皆様には頭が下がる思いでございます。

私は計画策定年度である令和5年度にはおりませんが、他の者が頑張ってくださいるので、計画をつくっていくなかで、活発なご意見やご議論をまたよろしく願います。今までどうもありがとうございました。

事務連絡が2点ございます。

1点目は、協議事項の中でご説明させていただきましたが、今回ご報告いたしました調査結果(速報版)につきましてご意見・ご質問がございましたら、お配りしております意見提出書にご記入をいただきまして、返信用封筒にて、お忙しい中恐れ入りますが、4月14日(金)までにお送りいただきますようお願いいたします。

2点目は、こちらも先ほどスケジュールの方で触れさせていただきましたが、令和5年度第1回の本運営協議会につきましては、7月上旬の開催を予定しております。日程が決まりましたら、改めて書面でお知らせいたしますので、どうぞよろしく願います。事務局からは以上でございます。

以上をもちまして、令和4年度第3回川西市介護保険運営協議会を閉会いたします。委員の皆さま、お疲れさまでした。

会長  
職務  
代理者